

東京の自然公園ビジョン

～自然に生かされ、自然を活かし、自然公園とともに歩む未来～



2017年（平成29年）5月

 東京都

東京には、都内最高峰である雲取山周辺の亜高山帯から世界自然遺産である小笠原諸島の亜熱帯まで多様で豊かな自然環境が広がっています。大都市でありながら行政区域の約36%ものエリアが国立公園などの「自然公園」に指定されていることを御存知の方は少ないのではないのでしょうか。



これほど、多様で豊かな自然環境に恵まれた首都は先進諸国において極めてまれです。

生物の多様性確保の重要性がますます高まる中、多くの動植物を育む東京の自然公園の価値も高まっています。

東京の自然は、人の営みとの関係性が濃いことも特徴の一つです。多摩地域の山々から切り出された木々はいかだに組まれ多摩川を下り、江戸のまちを造りあげるうえで、なくてはならないものでした。東京の発展は、豊かな自然によって支えられてきました。林業が発展したことで、良好な森林環境も保全され、多摩から島しょまで多様な自然が広がっていることで、今に続く地域の個性や豊かな文化が育まれてきました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を控え、世界中のまなざしが東京に注がれています。近年、自然の中を歩いて旅する、ロングトレイルを楽しむ海外からの観光客が増えています。そうした方々が、自然ばかりでなく、温泉や山岳信仰などの文化にも関心を寄せつつあり、東京の自然公園も注目度が高まっています。豊かな自然環境はもちろんのこと、温泉や山岳信仰、地域固有の食文化、あるいは自然に根ざした産業や伝統といったものを、体感できる東京の自然公園は、魅力がたくさん詰まった、いわば「宝箱」のような場所ともいえるでしょう。

こうした東京の素晴らしい自然と文化の多様性、豊かさを確実に次世代に継承していくとともに、多くの方々にその素晴らしさを知っていただきたい、また、お越しいただき、触れていただきたいという思いから、全国で初めてとなる自然公園に関する総合的なビジョンを、策定いたしました。

人間は、自然の恵みを享受し生きています。次世代の持続可能な発展のためにも、東京は世界をリードする成熟都市として、経済的な発展のみならず、それを支える自然も大切にしていかなければなりません。

皆様方と力を合わせて、東京の自然公園の価値を最大限に発揮させてまいります。

2017年（平成29年）5月

東京都知事

小池百合子

目次

「東京の自然公園ビジョン」策定の考え方	1
第1章 東京の自然公園の現状と課題	5
1 東京の自然の状況	6
2 東京の自然公園の現状	9
2.1 自然公園制度	9
2.2 東京の自然公園の歴史	11
2.3 東京の自然公園の状況	14
3 課題	25
3.1 自然・風景地の保護に関する課題	25
3.2 利用に関する課題	29
3.3 生物多様性に関する課題	33
3.4 保護と利用のバランスの確保に関する課題	34
3.5 執行体制に関する課題	34
第2章 自然公園として大事にすべき特徴・価値	37
1 多様性と連続性が織りなす豊かな自然環境	38
2 人の営みとの関係性	40
3 都心部からの近接性	41
第3章 東京の自然公園が目指す姿	43
第4章 今後の施策展開	49
第5章 各自然公園の特徴と目指す姿	61
1 秩父多摩甲斐国立公園	62
2 富士箱根伊豆国立公園	65
3 小笠原国立公園	69
4 明治の森高尾国定公園	72
5 都立滝山自然公園	75
6 都立高尾陣場自然公園	77
7 都立多摩丘陵自然公園	79
8 都立狭山自然公園	81
9 都立羽村草花丘陵自然公園	83
10 都立秋川丘陵自然公園	85
第6章 リーディングプロジェクト	87
資料集	95
1 策定の経過	96
2 用語解説	106